

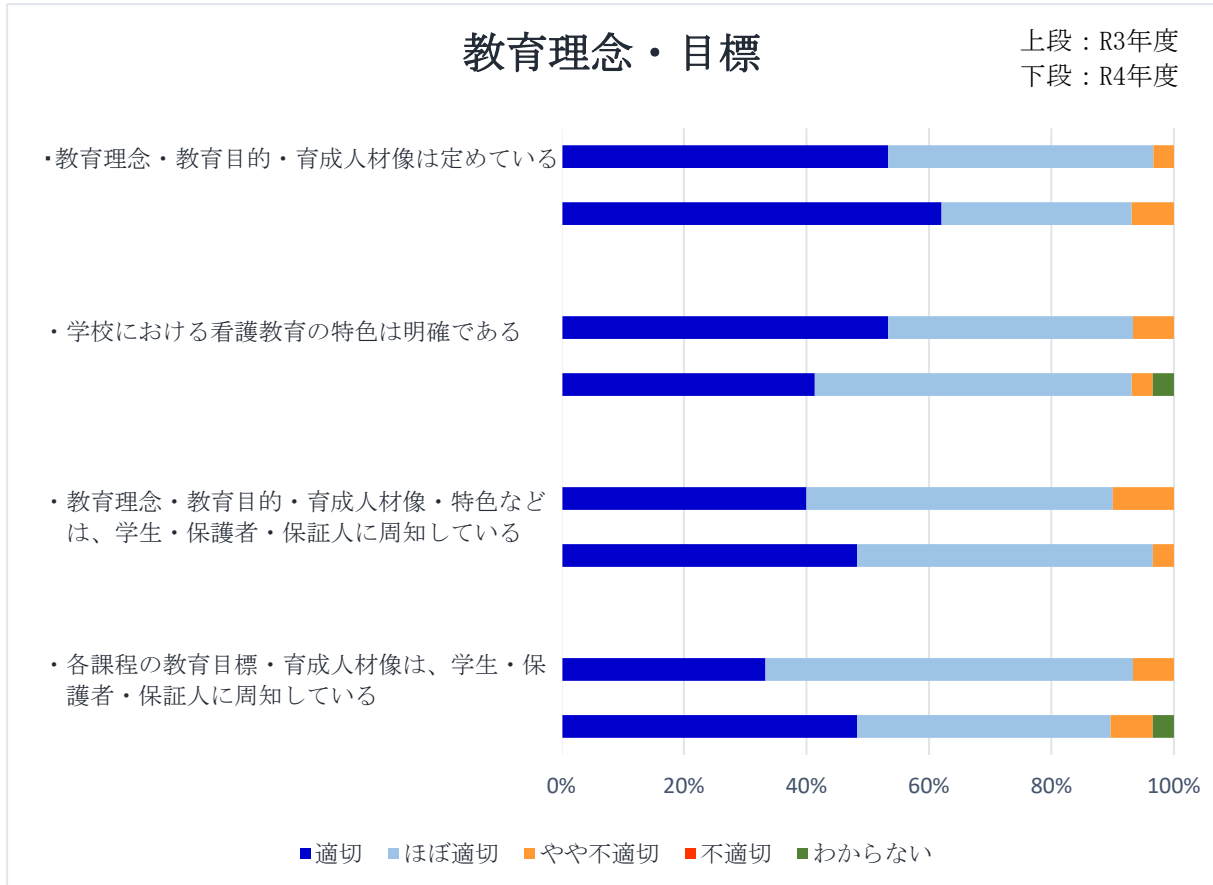
# 京都府医師会看護専門学校

## 令和4年度 自己点検・自己評価

### I. 教育理念・教育目標・人材育成

N=29

#### (1) 教育理念・目標



校内評価	外部評価
<p>*ほぼ9割が肯定評価。「わからない」があることが課題。</p> <p>「まず、「教育理念・教育目的・育成人材像は定めている」については、「適切」が昨年度より9%高くなっているものの、「やや不適切」が7%とやや増えた。これは、新カリキュラムへの移行に伴い、一部の教員に教育理念等が浸透できていなかったのではないかと考える。</p> <p>「学校における看護教育の特色は明確である」については、「わからない」との意見が3%と一部あるものの肯定意見は昨年度とほぼ同率であった。「教育理念・教育目的・育成人材像・特色などは、学生・保護者・保証人に周知している」については、「適切」「ほぼ適切」が昨年度より6%高くなっている。昨年度同様、ガイダンスに明示し、オリエンテーションなどで十分に説明していることや、今年度は、3年振り</p>	<p>教育理念、教育目標等について適切に定められている。学生・保護者・保証人への周知については、「適切」「ほぼ適切」の合計が前年度を上回っていることから努力の成果が表れていると思われる。</p> <p>全体的に昨年度より適切、ほぼ適切評価が増加しており、教職員の方々のご努力の賜物であると考えられますが、一部の方ではあるものの、学校教育の特色で「わからない」との意見があり、再周知が必要と思います。</p> <p>90%肯定的評価であり概ね良好である。「わからない」3%（1名）は新カリキュラム変更1年目でもあり定着するまでには時間を要すると考える。教育理念や目標はHPにも掲載・解説してあり解り易い。創立102年間の実績は社会貢献と信頼に繋がっている。学科変更も社会情勢の変化により存続するための差別化</p>

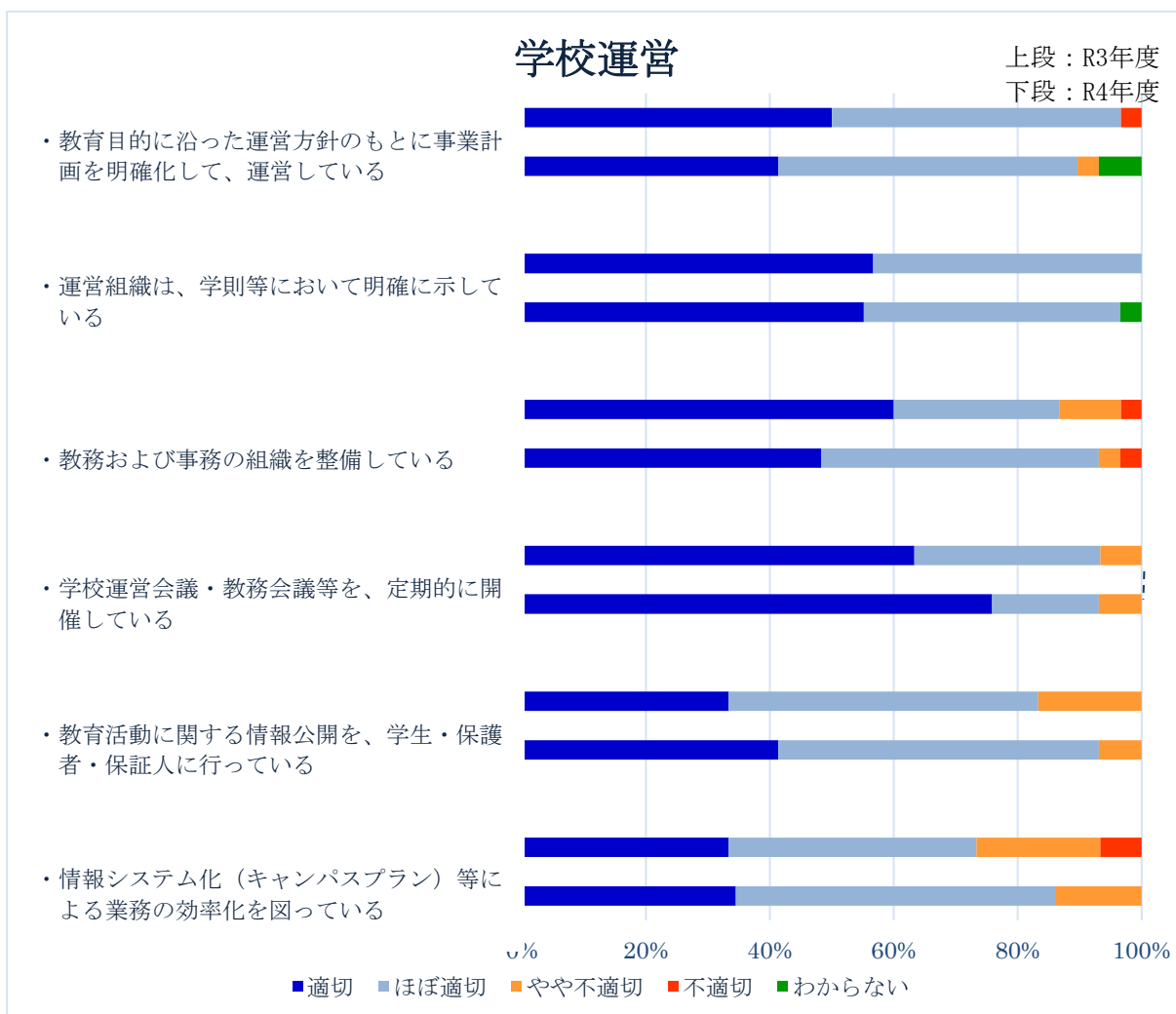
に保証人会を開催し、周知できる機会があったことも要因の一つと考える。「各課程の教育目標・育成人材像は、学生・保護者・保証人に周知している」については、昨年度とほぼ同率であったが、「わからない」との意見が3%ではあるがあった。一部の教員の中には新カリキュラムの中身を十分に理解できていないことも一因であると推測する。次年度からは、2年課程が閉課し、助産学科と3年課程の2課程になる。全教員が新カリキュラムに基づいた教育理念・目標を十分に踏まえた上で、本校が育てたい学生像に向けた人材育成に努めていく必要がある。

を図り更なる向上を目指していることが理解できる。

教育理念・目標、全項目「適切」「ほぼ適切」が9割を占めており取り組みの成果であると思います。新カリキュラムへの移行に伴い、一部の教員に教育理念等が浸透できていなかった評価ではあるが、移行期では一定程度周知不足は一般的にみられると思われるので、今後の取り組みの継続に期待したい。

## II 組織運営

### (1) 学校運営



校内評価	外部評価委
<p>*9割が肯定評価。一部に「わからない」があることが課題。 「教育目的に沿った運営方針のもとに事業計</p>	<p>教育理念、教育目標等を適切に定めた上、運営面については、校内共有を徹底していくことが理想である。若干の課題は感じられるが、情</p>

画を明確化して、運営している」については、「不適切」がなくなったものの「わからない」が6.9%あった。これは、Iの教育理念等でも触れたが、新カリキュラムの始動により現行カリキュラムと並行した教育実践について一部の教員の中で具体的な運営方針が明確になっていなかったものとする。調査時期が12月という年度途中であったことも一因であるとする。

「運営組織は、学則等において明確に示している」についてはほぼ肯定意見であったが一部の教員に「わからない」という意見があった。これも現行カリキュラムから新カリキュラムへの移行に伴う学則の変更が影響しているものとする。

「教務および事務の組織を整備している」については、肯定意見が多くなった。教員と事務職員との連携を強化するために業務改革委員会を立上げ、今まで慣習的に教員が行っていた事務作業の大部分を事務職員に移行することで、教員独自の業務に専念できるようになったためとする。また、ICT化に向けての学習環境の整備についても事務局が大部分の役割を担うことで教員の負担はかなり軽減している。

「学校運営会議・教務会議等を、定期的に開催している」については、肯定意見は昨年度とほぼ同じであるが「適切」とした割合が高くなった。会議の定例化が定着できており、学校運営について関係者との情報共有や意見交換ができておりと評価できる。

「教育活動に関する情報公開を、学生・保護者・保証人に行っている」については、肯定意見の割合が高くなった。今年度は、3年振りに保証人会を開催し、情報公開できたことが良い評価につながっていると考える。「情報システム化(キャンパスプラン)等による業務の効率化を図っている」については、肯定意見の割合が高くなった。今年度もより一層、事務部門の強力なサポート体制が得られ、業務のシステム化・スリム化が進み、業務の効率化に向けた改善がなされた結果だと考える。次年度も、教員及び事務局の連携をより一層密にし、教職員が一丸となって教育の質の向上に努めていきたい。また、導入した出欠管理システムの運用方法の見直しや、健康管理システムの効果的な導入を検討する必要がある。さらに、教職員の「働き方改革」に応じた多様で柔軟な働き方を導入することで、教職員の生活やプライベートを守りながら健全な学校運営が行えるように努める。

情報公開や業務効率化のための情報システム化については、前年度よりも成果が表れている。

学校運営、教育活動、業務の効率化の適切評価の増加は、高評価に値すると考えられますが、昨年度に無かった、教育目的に沿った運営方針に「わからない」があり、運営方針の再周知が必要だと思います。

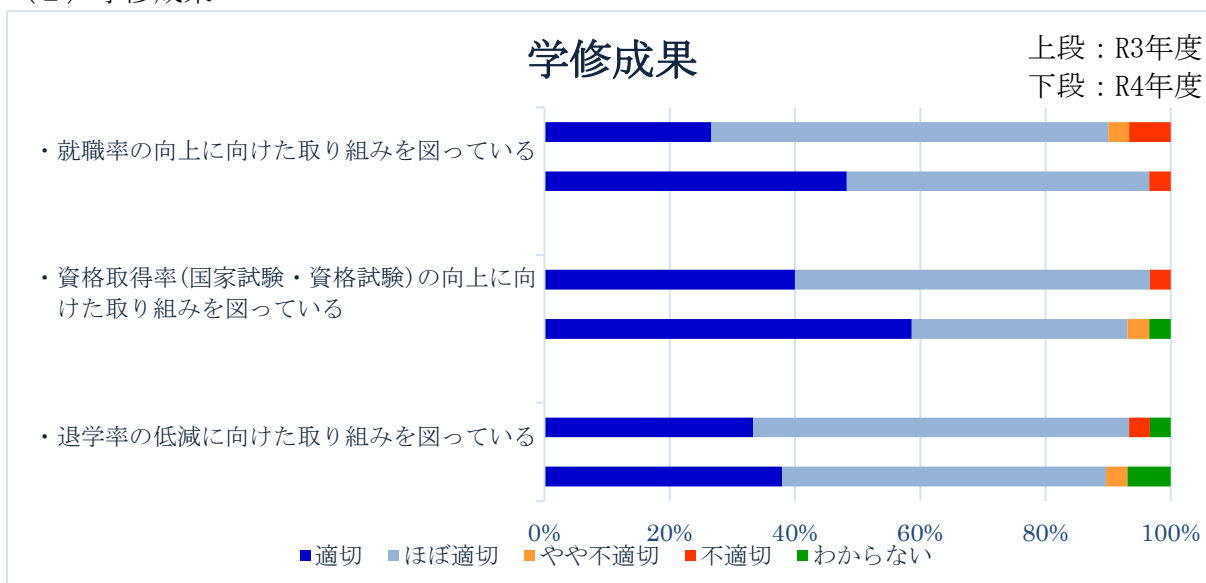
R4年は、不適切の回答がなく概ね良好である。政府のコロナ対策変更が相次ぎ、教員と事務職のタイムリーな連携が学生指導に影響したと推察する。混乱した中で「変わらない」の意味は安定していたとも理解できる。

保証人会3年ぶりの開催は学校と病院との情報共有で共に学生支援に関わっている再認識につながっている。

導入後の出欠管理システムの評価を聞きたい。離職率、超過勤務時間、有給休暇取得率等のデータ公表があればわかり易い。

「教務および事務の組織を整備している」については、肯定意見が多くなったことは業務改革委員会の立上げで、今まで慣習的に教員が行っていた事務作業の大部分を事務職員に移行するタスクシフトが行われたことは、教員独自の業務に専念できる環境獲得につながり大きな成果であると思います。教職員の「働き方改革」では多様で柔軟な働き方を導入される取り組みでは、教職員の生活やプライベートを守ることによって結果、健全な学校運営や教育の質向上につながると考えますので、継続して取り組んで頂きたい。

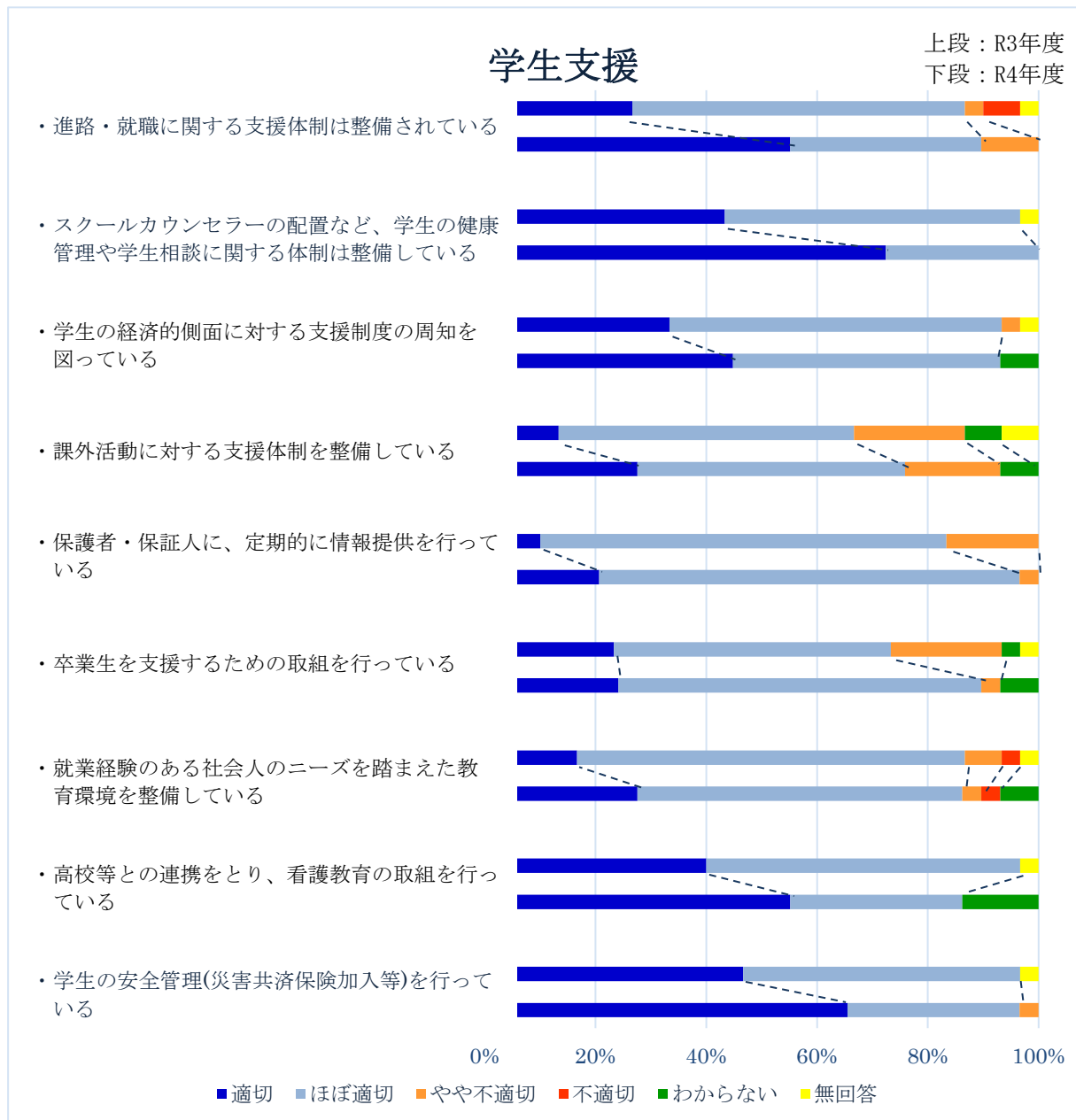
(2) 学修成果



校内評価	外部評価
<p>*9割が肯定評価。一部に「わからない」があることが課題。</p> <p>学修成果について、「就職率の向上に向けた取り組みを図っている」は「適切」「ほぼ適切」が96%で、昨年度より約6%高くなった。特に「適切」が27%から48%と増加している。今年度からキャリアセンターが設置され、就職に関する広報活動や学生個別の面談など就職に関するサポートが充実したことが大きく影響している。引き続き、担任とキャリアセンターの連携を取り、サポートを継続していく。</p> <p>「資格取得率(国家試験)の向上に向けた取り組みを図っている」については、「適切」が40%から59%へ大きく増加している。今年度から国家試験対策担当の専任教員を配置したこと、最高学年だけではなく入学時から修業期間を見通して国家試験対策を計画したことで学校全体として国家試験に取り組むことができた。模擬試験の種類や時期を検討し、その結果の分析を行うこと、年間計画の定期的な見直しを行うことで、より一層の学生の力量や学習進度に合わせた効果的な対策を取ることが今後も必要である。国家試験対策においては精神的なサポートも重要であるが、担任のみの負担とならないよう学校として取り組みが必要である。</p> <p>「退学率の低減に向けた取り組み」は、「適切」「ほぼ適切」が90%である。昨年度に比較すると登校の制限はやや緩やかになったことから、他者との関わり不足による孤独感を感じ退</p>	<p>就職率向上及び、資格取得率向上は本学の存在意義に関わる内容であると思われる。就職率向上に向けた取り組みは、前年度よりも数値を向上させ、職員の認識の向上が窺える。</p> <p>就職率の向上においては高評価であるものの、資格取得率の向上や、退学率の低減に昨年度になかった「わからない」があり、学生への学習面でのフォローはもとより、生活面などのフォローも充実させる必要があると思います。</p> <p>キャリアセンターが今年度から設置され就職活動に特化した指導による学生の変化や担任教員の負担軽減はどうだったのかの評価も欲しい。</p> <p>国家試験対策担当の専任教員の配置は、1年生から準備が計画的に進められ効果が期待できる。</p> <p>退学率の低減に向けた取り組みは、学年を問わず必要であり、答えを出す前に悩みを相談する機会があることを周知していく。</p> <p>キャリアセンターの設置や就職に関する広報活動や学生個別の面談など就職に関するサポート充実の成果が現れており、今後も取り組みを継続して頂きたい。「資格取得率(国家試験)の向上」では、国家試験対策担当の専任教員の配置や国家試験対策計画で学校全体として取り組まれていることで高い合格率に繋がっていると思います。</p>

学へとつながったケースは見受けられなかった。しかし、学習面への不安を訴える学生がいる現状に変わりはなく、学生へのサポートは不可欠である。また、学習面だけではなく、精神、健康面を含めて学生の些細なサインを見落とさないよう普段から心がけ、信頼関係の構築に努める。

### (3) 学生支援



校内評価	外部評価
<p>9項目中、ほぼ全ての項目で「適切」「ほぼ適切」が増加した。特に「進路・就職に関する支援体制は整備されている」は「適切」が27%から</p>	<p>学生への支援体制については、全体的に良好と感じられるが、「わからない」者への対応について考えることも必要である。</p>

55%と大幅に増加している。これは今年度からキャリアセンターが設置され、周知・活用できているためである。「課外活動に対する支援体制を整備している」は「やや不適切」17%「不適切」7%でやや多い結果となっている。課外活動そのものがコロナ禍で制限されていたものの、課外活動に対する支援は担任が担うことが多く担任以外の支援体制も必要であることが示唆された。

「保護者・保証人に、定期的に情報提供を行っている」は「適切」「ほぼ適切」の割合が高くなっている。今年度は、コロナ禍ではあったが保証人会を開催した。参加者は4施設と保護者6名と例年より少なかったが、感染予防対策を講じながら無事に開催できたことは評価できる。一方で、事前の周知やオンラインの活用など、開催方法を検討することも今後の課題として残った。引き続き、インスタグラムやホームページを活用するなど学校の様子は適宜発信していきたい。

「高校等との連携をとり、看護教育の取組を行っている」は「適切」「ほぼ適切」の合計が97%から81%へと減少し「わからない」が0%から14%に増加した。これは、出前授業や学内での演習参加などを実施しているものの、教員全体で関わっていないことが要因の一つではないかと考える。今後は教員全体を巻き込んでの実施を考えていく必要がある。

「学生の安全管理を行っている」は「適切」が47%から66%へ増加している。この要因として、教員に災害共済加入などが認知され必要時に学生へタイムリーに情報提供、対応できていることが考えられる。

スクールカウンセラーの相談について、校内体制改善等のために多くの職員が相談内容を共有することは効果的で必要であるが、生徒の心理面への配慮も考えていく必要がある。

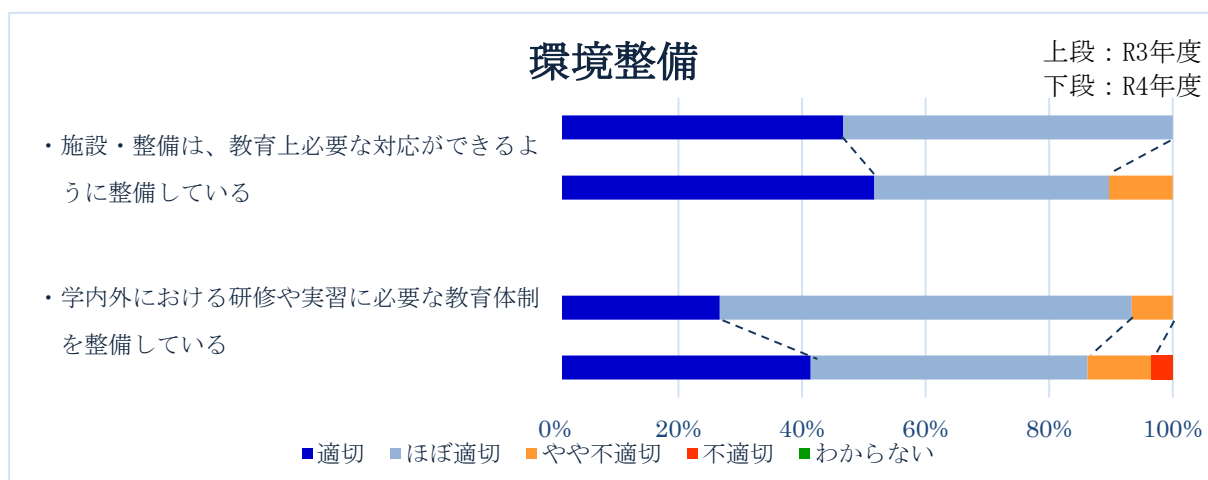
学生の健康管理や学生相談に関する体制の高評価は、支援体制の充実に向けた取組の成果と考えられますが、就業経験のある社会人のニーズを踏まえた教育環境の評価が若干低下しており、学習意識の高い社会人経験のある学生に対する支援不足が懸念されます。

ほぼすべての項目で増加しており、向上していることが解る。

ご意見箱の設置、スクールカウンセリング、ハラスメント相談窓口等、安心できる環境が整備されていることを周知していく。

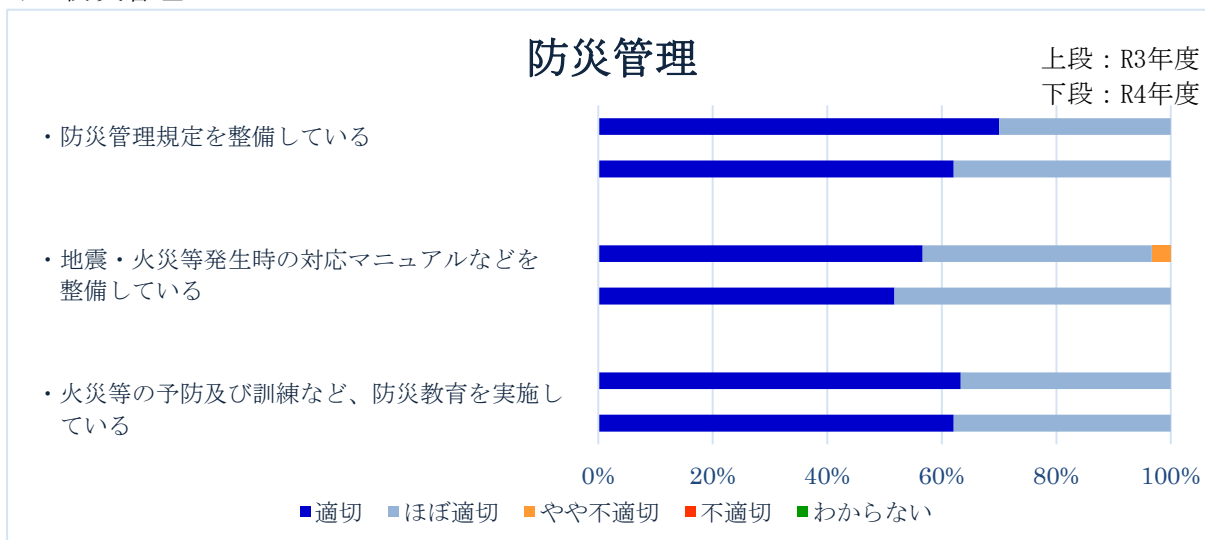
「進路・就職に関する支援体制は整備されている」は「適切」が27%から55%と大幅増加しており、キャリアセンター設置による周知・活用の推進、継続されることを期待します。

#### (4) 教育環境 ア 環境設備



校内評価	外部評価
<p>環境整備は整ったが、突発的な配信トラブルへの対応やコロナ禍での予測不可能な事態への対応に課題が残った。</p> <p>「施設・設備は教育上必要な対応ができるように整えている」については、昨年度は「適切」「ほぼ適切」が100%であったが、今年度は「適切」「ほぼ適切」が90%、「やや不適切」が10%であった。昨年度、校内全館のWi-Fi整備、多様なオンライン形式授業の実施を進め、さらに、Webカメラの利用をはじめ、スクリーンやスピーカー、マイク等の整備を行った。環境を整備することで、今年度は、教育活動に必要な関連機器への順応、授業の安定化を図ることができたと考える。しかし、さらなるICT化、ペーパーレス化や電子教科書導入に向けて整備が必要である。教育活動の安定した体系化を図り質向上にむけてさらなる課題抽出と対応が必要と考える。</p> <p>感染予防を踏まえた教室使用については、複数教室を使用した対面方式・オンライン方式での同時授業の充実を図った。学生への平等性を考慮し、対面教室とオンライン教室を適宜入れ替えとするなど、工夫を凝らした。コロナ禍で必要に迫られた状況を、感染症対策と併行して教育の質の向上・効率化を目指す状況へと移行することができたと考える。</p> <p>「学校外における研修や学習に必要な教育体制を整備されている」では、昨年度は、「やや不適切」が7%であったが、今年度は、「やや不適切」「不適切」が10%となった。課外授業の多くは、ICT環境下で概ね計画通り進められたが、臨地実習については、新型コロナウイルス感染症による学習制限や事前検査など変わらない状況が続いた。結果、コロナ禍で、予測できない実習状況に教員人数の限界などから対応が難しいといった学習環境調整が引き続き課題であると思われる。</p> <p>学内での学習環境としては、学生からの要望が多かった学習室や学生ホール、図書室の利用は感染防止対策のルールを徹底しながら開放していった。</p> <p>教員に関しても、昨年度に引き続きオンラインを活用した学内の研修会や講演会を実施し、学外研修もほとんどがオンライン研修となり、多くの教員が参加することができた。さらなるICT化に向け、リーダーシップがとれる専属の教職員を中心に多くの教職員が熟知した上で運用できるよう、ICT授業について知識・技術を高めるよう今後も一丸となって研鑽していく。</p>	<p>コロナ禍を通じてICT環境の整備が進められ、その充実感が窺える。全職員が関連機器への順応・操作技術向上がスムーズに進むことを期待する。</p> <p>オンライン授業やICT化など、環境設備は他校に比べ充実していると考えており、適切評価の増加からも、コロナ禍での充実した授業の実施が伺われます。今後は現場実習などの機会が増えることを期待しております。</p> <p>校内全館のWi-Fi整備、Webカメラ、スクリーン、スピーカー、iPad等でオンライン授業になりコロナ感染を機会に授業形態の変化に対応していることが解った。今後はIT機器を使いこなせるスキルアップが必要である。</p> <p>校内全館のWi-Fi整備、多様なオンライン形式授業、Webカメラの利用など環境整備を図られたことはコロナ禍で教育の質を維持するために必要不可欠であったと思います。</p>

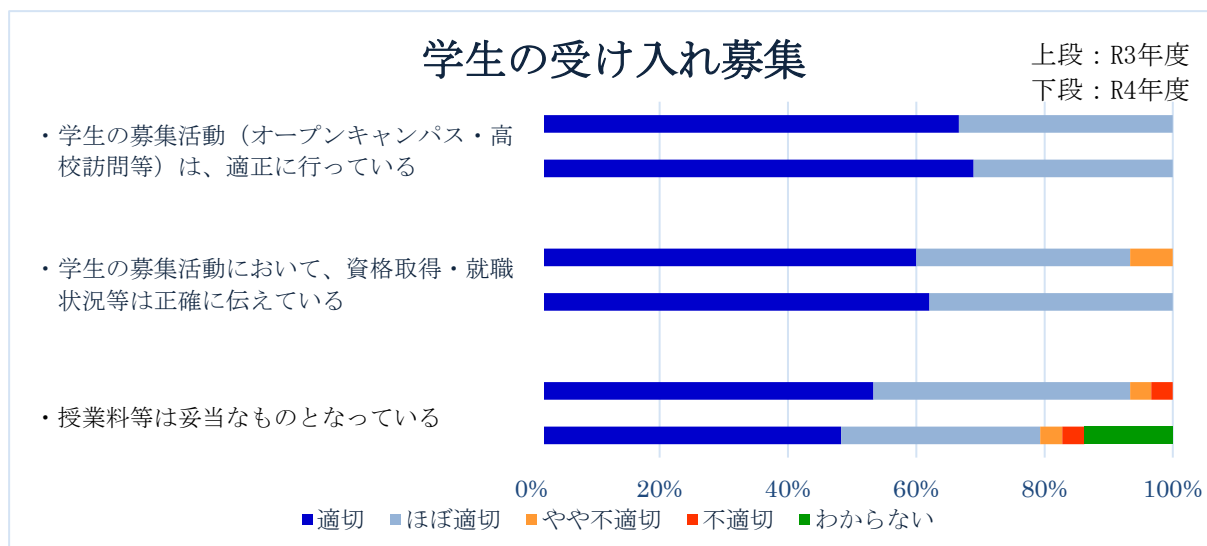
イ 防災管理



校内評価	外部評価
<p>今年度は、「防災管理規定を整備している」「地震・火災等発生時の対応マニュアルなどを整備している」「火災等の予防及び訓練など、防災教育を実施している」全てにおいて、「適切」「ほぼ適切」が100%を占めた。</p> <p>昨年度、「地震・火災等発生時の対応マニュアルなどを整備している」に「やや不適切」が3%であったが、今年度0%と減少した。今年度は、教職員対象の防災訓練や学生対象の訓練実施に際して、複数回全体会議にて周知を図り、学生の意識付けにあたった。また、出火場所の事前通知をなくし訓練時の状況に適した判断・行動することを課すなど、防災訓練運営に工夫をしたことで対応マニュアルについての意識付けがなされた結果ではないかと考える。</p> <p>また、発災時の安否確認・連絡方法については、警報発令時など、定期的に再確認し周知の徹底を図った。教職員・学生共に発災時の役割や行動についての認識を含め、防災意識の醸成につながっていると思われる。</p> <p>本校が指定されている妊産婦等福祉避難所に関する訓練は、京都市からの依頼時期に対応できないため見送りとした。いつ何時でも対応できるよう、発災時初動マニュアルを作成し、教職員への周知を徹底し訓練を実施していく必要がある。</p>	<p>すべての項目において、「適切」・「ほぼ適切」からも危機管理の意識が窺える。自然災害の増加傾向が感じられる昨今、施設の防災管理や対応マニュアルの整備は必須である。特に、職種の特殊性を考慮すれば、防災教育の徹底は欠かせないものと感じる。</p> <p>防災管理においては、すべて高評価であり、安心して子供を預けられる環境整備をしていただくことに感謝しております。</p> <p>やや不適切・不適切・わからない回答がなく、防災対応は概ねできている。</p> <p>「災害時看護支援体制」は、日本看護協会の重点目標でもあり、学生時代から関心を持ってほしいので、良い機会になると考える。</p> <p>マニュアルの見直し・作成、活動等の取り組みは適切で問題ないと思います。</p>



(5) 学生受け入れ募集



校内評価	外部評価
<p>「学生の募集活動（オープンキャンパス・高校訪問）は、適正に行っている」「学生の募集活動において、資格取得・就職状況などは正確に伝えている」に関しては、「適切」「ほぼ適切」が100%であった。</p> <p>今年度のオープンキャンパスは、感染予防対策を講じた上での運営を工夫し来校型で5回実施することができた。参加状況は昨年度より約30%減少したものの近畿圏以外の参加者を含めて302名の参加であった。また、各回、メインの体験イベントを設定し、また、座談会や個別質問コーナーといった在校生による対応も実施することができた。さらに、参加者の強い希望を取り入れ、第2回目より看護学科・助産学科両学科説明会を設定し計41名の参加があった。在校生や教職員との直接的なかかわりや、在校生・教員の様子から学校の雰囲気や学生・教員との関係性が伺えた等、参加者の高い満足度が得られ受験候補校として評価が得られたと考える。</p> <p>また、オープンキャンパス運営は、教職員の意見をもとに、委員を中心に全教職員が運営に参加する形で実施した。よって教職員の広報についての意識付けや、参加者の反応が手ごたえとして実感できた結果ではないかと考える。今後も、全教職員で作り上げる広報活動を目指していきたい。</p> <p>さらに、広報活動として各種広報媒体への投稿を実施した。特に、教職員・学生を問わず、SNSを活用して学校生活の様子を発信してい</p>	<p>子どもの数が減少している中、学生の募集については難を極めるところであるが、オープンキャンパスを中心とした広告活動は順調に図れていると思われる。授業料についての「わからない」者への意識の向上に課題を感じる。</p> <p>学生の募集活動においては、教職員の方々の創意工夫により、積極的に実施されていると思います。特に在校生の率直な意見が聞ける座談会の開催は、非常に効果の高い取り組みだと考えられますので、場所や時間等の制約もありますが、今後も積極的に開催いただきたいと思います。</p> <p>コロナ感染予防対策に工夫し、可能な範囲で実施していた。</p> <p>学費等3年間約270万円は、私立大学に比べて約半額なので経済的な理由での学校選択に影響していると考えます。</p> <p>「学生の募集活動（オープンキャンパス・高校訪問）は、適正に行っている」に関しては、コロナ禍の状況に応じた工夫がされ、着実に実施に向けた活動に取り組まれた成果であると思います。教職員の熱意と活動への工夫が伝わるPRを継続して頂きたいと思います。</p>

った。在校生や卒業生、オープンキャンパス参加者、高校訪問で出会った高校生等、多くの方々の目に留まっていることが伺える。今後も、本校のアピールポイントが多くの方に伝わり、本校受験へ繋がるよう、発信が途絶えないよう工夫していきたい。

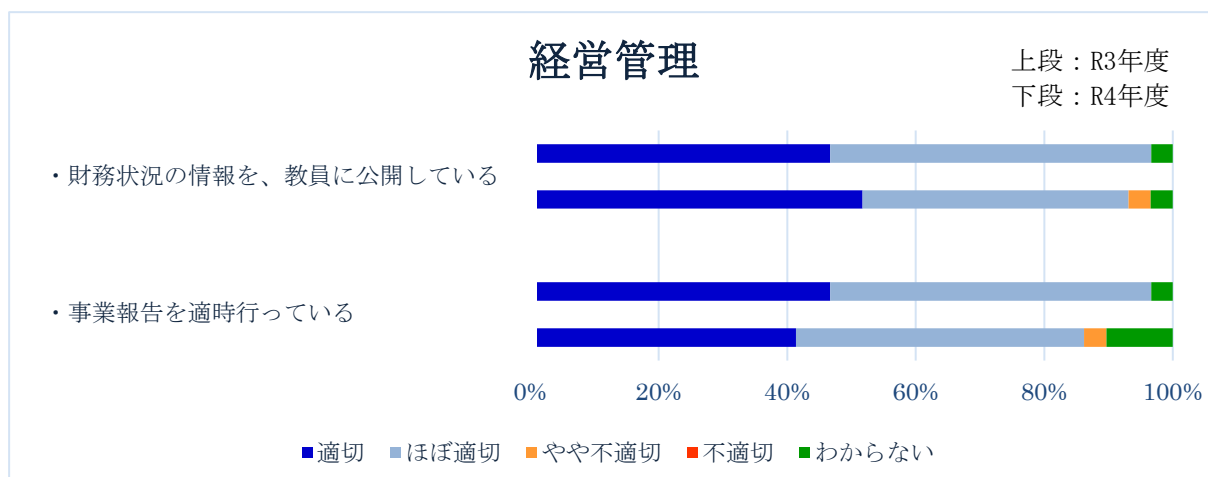
併せて、感染対策を講じた上で積極的に高校訪問を実施した。オープンキャンパス参加者の多くが HP、次に教員からの勧めが参加のきっかけと回答した。また、企業連携の一環として実施される高等学校授業(例えば、性教育授業)体験も動機として挙げられていることから、地道な企業連携を含めた広報活動が有用であることが確認できた。

来校による公開授業では洛東高校、出張授業では東稜高校、八幡高校、木津高校、洛水高校、京都すばる高校、精華学園高校へ教員が出向いた。今後も印象に残り「選ばれる学校」となるよう工夫した広報活動を実践していきたい。また、高校生・看護学生はもとより社会人獲得に向けて、参加しやすい開催時期・方法を検討していきたい。高校訪問とあわせて、助産学科入学生確保のための看護師養成校へのアプローチも必要である。

「授業料は妥当なものとなっている」に関しては、昨年度より「適切」「ほぼ適切」が14%減少、「わからない」が0%から14%の増加であった。意見として、「施設整備費をもう少し徴収して、設備を改修してはどうか」「学費は他校に比べるとそれほど高くない」「設備充実は大事で実習費も大学に比べると安価であるが、これで大丈夫か妥当かどうか分からない」また、「経営者でないため妥当なものかは分からない」といった意見があがった。「わからない」ではなく、妥当な理由とともに適切か不適切か判断できる教員集団でなければならない。教員が教育の対価としての授業料を意識し、それに見合った質の高い授業を展開していけるよう自己研鑽していく必要があると考える。社会人入学者には、職業実践専門課程やキャリア形成促進プログラム認可を受けたカリキュラムであることを今後も積極的にアプローチし、学生獲得に努めたい。

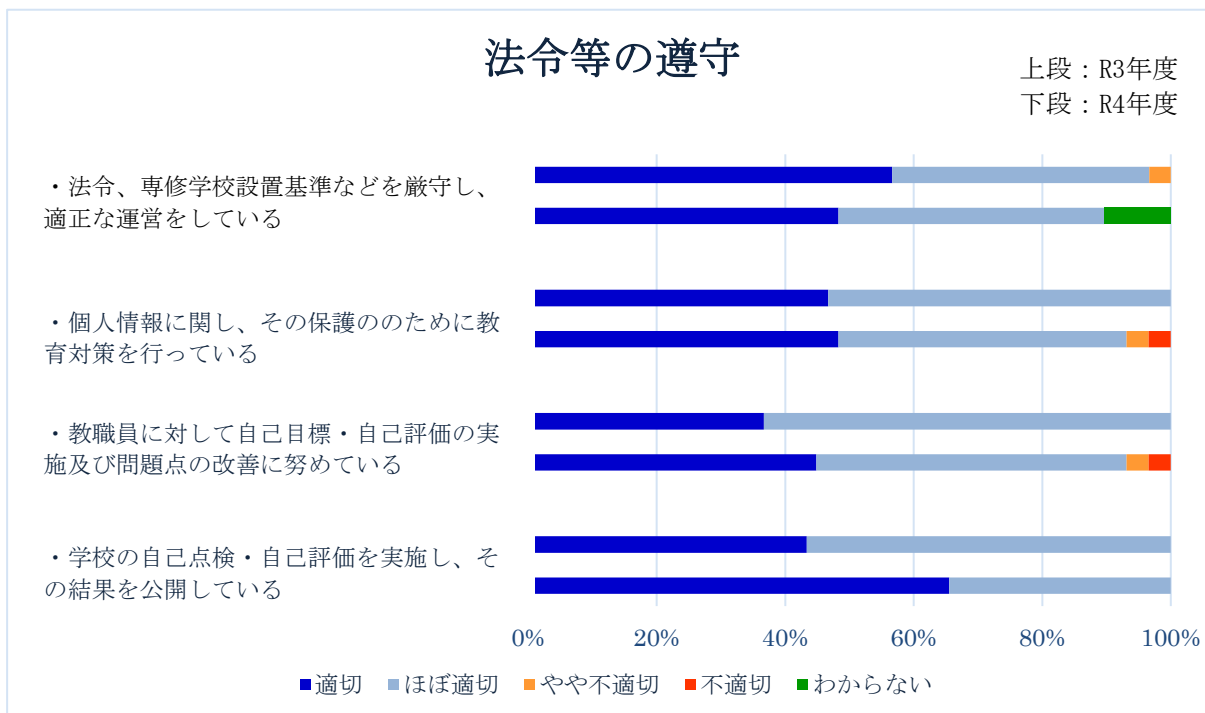
(6) 経営管理

ア 財務



校内評価	外部評価
<p>財務状況の情報を、教員に公開しているについては、適切とほぼ適切が90%を占めている。その中でも、昨年度の適切評価が昨年度より上昇したが、やや不適切と評価した教員もいた。これは、会議における財務状況についての報告の機会に、臨地実習や講義などで参加できなかった教員が会議録を見落としていることも考えられる。今後は、会議参加を最優先できるような業務整理も重要である。</p> <p>「事業報告を適時行っている」については「適切」・「ほぼ適切」と評価している教員が95%を占めるが、何れも低下している。</p> <p>これについても会議報告時の確実な出席が必須条件であると考え。また、欠席した教員がいる場合は教務会議などを通じて、全体に報告する習慣づけが必要である。何れも周知しているが、様々な理由から「わからない」といった評価にならないよう管理職が支援する必要がある。</p>	<p>詳細な情報公開、情報共有がなされていることが分かる。信頼性を左右する内容だけに、油断せずに継続をお願いしたい。</p> <p>財務状況の公開や事業報告において、昨年度になかった「やや不適切」との意見があり、昨年度と今年度の周知方法における相違など、検証が必要と思います。</p> <p>経営状況を職員が共有していることは取り組みの根拠につながり良いことである。会議に出席できない場合のフォローをどうするかが課題である。</p> <p>評価に記載されているように、会議報告時の確実な出席が必須条件であり、一般企業や医療法人も同様に職員への周知推進への支援活動が必須であると思います。</p>

イ 法令遵守

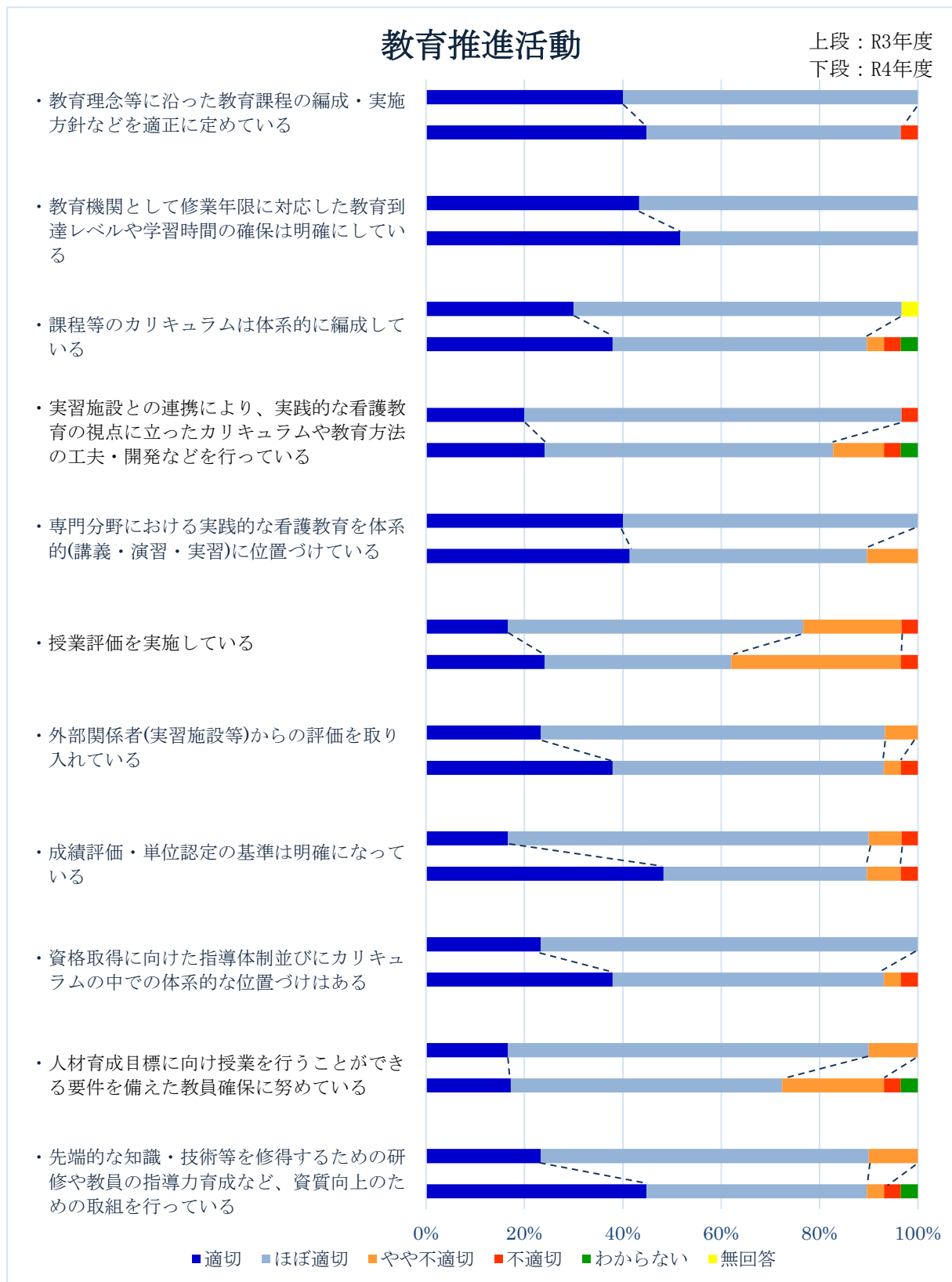


校内評価	外部評価
<p>4項目とも適切とほぼ適切の評価が90%前後を占めている。</p> <p>この中で昨年度よりも改善した項目はないが、「個人情報に関しその保護のために教育対策を行っている」と「教職員に対して自己目標・自己評価の実施及び問題点の改善に努めている」、「学校の自己点検・自己評価を実施しその結果を公開している」の3項目は「適切」と評価した教員が増加している。しかし、一部の教員の中には「不適切」「やや不適切」「わからない」と評価した教員もあった。全体的には、教員各自が自己目標を明確にして業務にたずさわるように心がけているために肯定意見が増えたと考える。</p> <p>「法令、専修学校設置基準などを厳守し、適正な運営をしている」については、当然法令を遵守して運営しているが、新型コロナウイルス感染症などにより、さまざまな変更点も多く、国や自治体からの新しい情報をもとに即効性をもって適切に運用していくことの困難さを示したものと推測する。特に臨地実習では学生に感染者が出たり、施設の状況から代替え実習などを余儀なくされることもあり、通常の運営からイレギュラーな運営に変更せざるを得なかったことも肯定評価にならなかった理由であると考えられる。次年度は新型コロナウイルス感染症も5類相当と</p>	<p>適切な運営・対策・改善が概ね感じられる。教育機関として、更なる信頼性構築のためにも引き続き適切な対応をお願いしたい。</p> <p>法令遵守や個人情報保護対策には万全を期しておられると思いますが、一部「不適切」と評価する方がおられることから、より一層の保護対策をお願いします。</p> <p>臨地実習においてコロナ感染状況に応じて変更が相次いだことによる対応や不安も回答に影響していると考えます。5類感染症へ移行に伴い落ち着くと思われる。</p> <p>自己点検・自己評価も真摯に実施している。</p> <p>4項目とも適切とほぼ適切の評価が90%前後で問題ないと思います。新型コロナウイルス感染症の法令移行に伴う変更を順次整理していくことが必要であると思います。</p>

なることから今年度より安定した運営が可能になると予測できる。引き続き、国や京都府からの情報をもとに適正な運営を心がけたい。

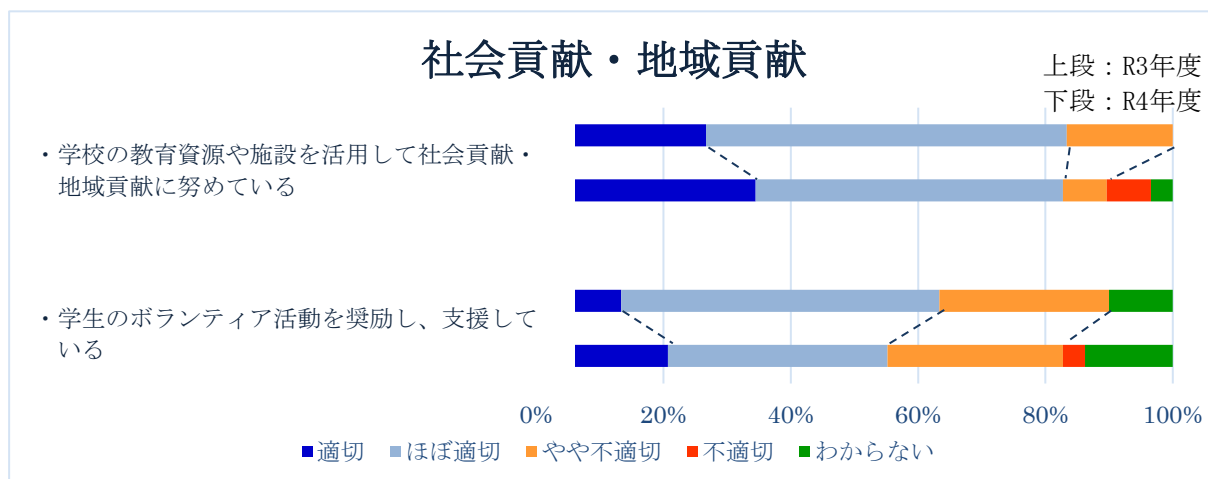
### Ⅲ. 教育活動

#### (1) 教育推進活動



校内評価	外部評価
<p>「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施・方針などを適正に定めている」「教育機関として修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にしている」「課程等のカリキュラムは体系的に編成している」「成績評価・単位認定の基準は明確になっている」「資格取得に向けた指導体制並びにカリキュラムの中での体系的な位置づけはある」については「適切」が増加しており、新カリキュラムが実際に始まり、教員が新カリキュラムを意識しながら教育活動が行えている結果だと考える。</p> <p>一方で、全ての項目において「適切」「ほぼ適切」の割合が高かった昨年度に比べて、「授業評価を実施している」においては「やや不適切」「不適切」を含めて37%、「人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保に努めている」においては「やや不適切」「不適切」「わからない」を含めて27%となった。授業評価はカリキュラム評価において、教育目標の達成状況の指標となるため重要である。次年度より基準を明確にし、授業評価をおこない教育目標の達成度の指標としたい。「人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保に努めている」については、コロナ禍による実習受け入れ状況の変化や授業形態の変容による業務の多様化、複雑化により人材の不足は否めない。業務のスリム化を図り、教員間でも密に連携を図る中で、教育活動をおこなっていききたいと考える。</p> <p>「先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組を行っている」については、昨年度と比較して「適切」が45%に増加している。これは様々な外部研修や学内での研修などに参加し、ICTを最大限に活用したオンライン授業や学内実習の構築に教員が積極的に取り組んだ結果だと考える。今後もICTを活用した教育活動を積極的に取り入れることで学生の学習成果が最大限に得られるようにしたい。また、これが本校の強みとなるよう特定教員だけでなく、全教員が取り入れられるよう研修を重ねていきたい。</p>	<p>教育理念等に沿った教育活動を推進するためには、学校にとって理想的な推進活動を全職員が理解し進めていく必要がある。特に前年よりも「適切」・「ほぼ適切」が低下している項目について、職員全体が「我ごと」として捉えて改善を図っていくことを期待する。</p> <p>教育推進活動のすべての項目において適切評価が増えており、教職員の方々のご努力の賜物であると考えられますが、実践的な看護教育の視点に立ったカリキュラムや、人材育成目標に向けた授業を行う教職員確保に「わからない」との評価があり、より一層の推進活動に向けた取り組みをお願いします。</p> <p>11設問中、9問に不適切であると少数回答がみられたことは、新カリ変更やコロナ感染対策が影響したのかもしれない。臨床と同じく学校もコロナ対応に追われた感があるが、5類感染症へ移行に伴い落ち着くと思われる。</p> <p>評価されているように、コロナ禍による実習受け入れ状況の変化や授業形態の変容による業務の多様化、複雑化により人材不足に対して、業務のスリム化・教員間の連携を図り教育活動を継続されることを期待します。ICTを活用した教育活動も継続・拡大していかれることを期待します。</p>

#### IV. 社会貢献・地域貢献・国際交流



校内評価	外部評価
<p>「学校の教育資源や施設を利用して社会貢献・地域貢献に努めている」については「適切」「ほぼ適切」が80%を超え昨年度とほぼ同率であった。一方で、「不適切」や「わからない」との回答もあった。校内への立ち入り制限があったことも影響している可能性がある。今年度も府内の感染者の動向を見極めながら、看護学科と地元高校との連携授業や分野別模擬授業に出向くことができた他、助産学科学生による性教育授業についても、高校に出向いて開催することができた。</p> <p>ボランティア活動は今年度も地域の行事が中止となるなど、参加の機会がなかった。また、学生に行動制限を課していたこともあり、ボランティア活動を積極的に促すことができなかった。</p> <p>(今年度の活動は以下の通り)</p> <p>令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられることから感染状況に留意しながら、教員も学生も地域や社会貢献につながる活動を実施していきたい。</p>	<p>コロナ禍の状況ではボランティア活動の奨励は困難であったと思われる。今後、できる範囲での社会貢献・地域貢献の活動を進めていかれることを期待する。</p> <p>社会貢献や地域貢献については、コロナ禍で活動制限があったにもかかわらず、感染防止対策を行いながら積極的に実施されていると思います。</p> <p>看護学校と高校との連携は素晴らしいことである。高校等で出前授業をしていることを知らなかったのが、HPに掲載し、見える化を推進していく。ボランティアについてコロナで活動しにくい環境だった要因は大きい。今後、改善できる項目である。</p> <p>コロナ禍での活動が困難であったが、新型コロナウイルス感染症5類に引き下げにより、地域や社会貢献につながる活動を期待します。</p>

#### 1. 社会貢献

##### 【洛東高等学校実習受け入れ】

- 第1回目 対象：2年生23名 日時：9月27日(火) 14:05～15:30 内容：姿勢と体位変換
- 第2回目 対象：2年生23名 日時：10月11日(火) 14:05～15:30 内容：移送について
- 第3回目 対象：3年生14名 日時：10月26日(水) 14:05～15:30 内容：バイタルサイン(血圧測定) シミュレータを使っての観察
- 第4回目 対象：3年生14名 日時：11月9日(水) 14:05～15:30 内容：ビニール浴

##### 【環太平洋大学実習受け入れ】

10月11日～11月9日 1名受け入れ

【京都市委託事業】

潜在看護力再チャレンジ講座 2月13日～14日 5名参加

【講師派遣】

京都府看護協会 実習指導者講習会 11/28～12/2 赤尾、秋山

日本看護シミュレーションラーニング学会 研修会講師 北西

株式会社学研メディカルサポート 看護実践シミュレーション e-ラーニング テーマ「転倒・転落」 北西

【分野別模擬授業（看護専門学校）】

5月27日 京都府立八幡高等学校北キャンパス 橋戸

7月15日 京都精華学園高等学校 橋戸

9月21日 京都府立西城陽高等学校 秋山

11月16日 京都府立木津高等学校 橋戸

【学会/職能関係】

京都母性衛生学会理事・副編集委員長

秋山寛子

京都府看護協会選挙管理委員

秋山寛子

京都府看護協会推薦委員

橋戸好美

京都府看護協会総会協力委員

橋戸好美

秋山寛子

准看護師制度特別委員会委員

秋山寛子

山科保健センター運営協議会委員

秋山寛子

京都府立洛東高等学校運営協議会委員

秋山寛子

日本看護シミュレーションラーニング学会 研修委員

北西富恵

日本看護シミュレーションラーニング学会 研究委員

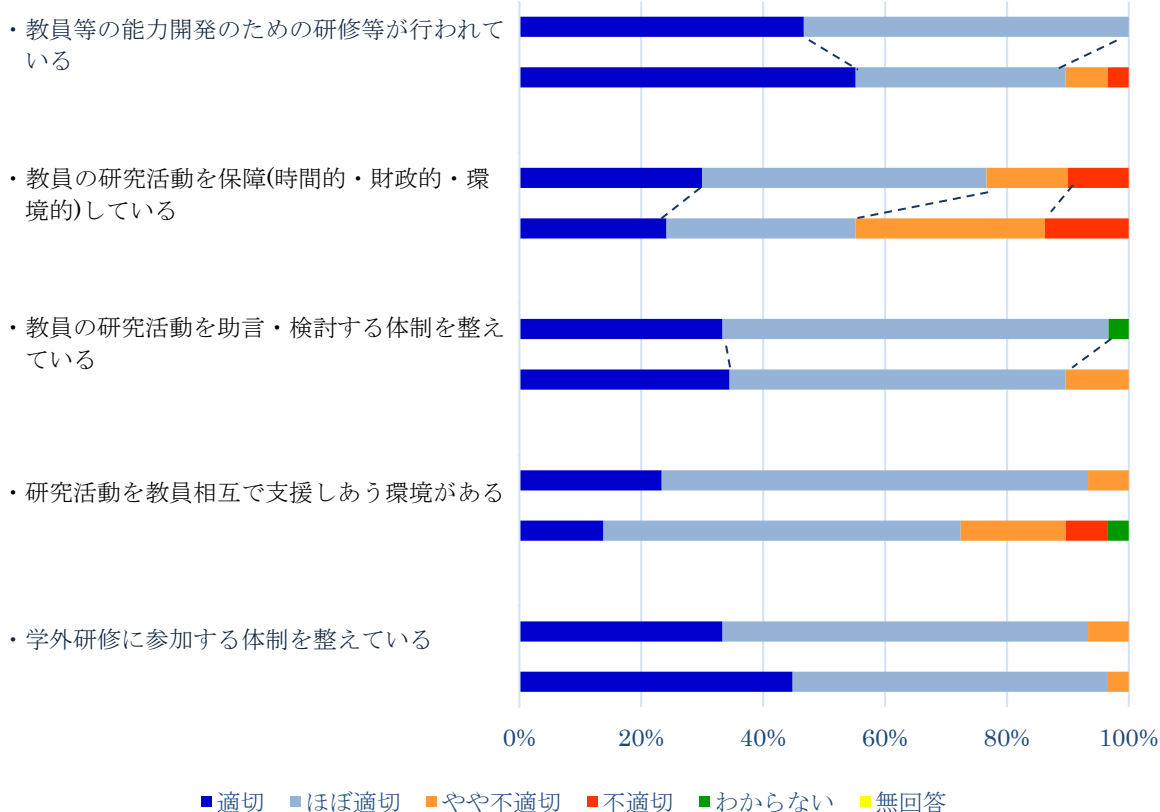
北西富恵



## 研究・研修

上段：R3年度

下段：R4年度



校内評価	外部評価
<p>昨年度、全ての項目において肯定評価に転じていたが、今年度は「やや不適切」「不適切」の回答の割合が高くなった。特に、「研究活動の保障」については否定的評価の割合が高くなった。業務改革の一貫で超過勤務を可能な限り減らしていく中、研究活動に費やす時間の確保が難しいとの回答が多かった。業務外で研究をした時に時間外手当がつかないといった回答も少数ではあるがあった。自身の統計的知識の不足から研究が負担との声もあった。</p> <p>「研究活動を教員相互で支える環境」についても否定的評価の割合が高くなった。その理由の中に教員が集まって話し合う時間がないことを挙げていた。何れにしても、研究活動の必要性はわかるが、時間の確保、研究活動の優先順位の低さ、自身の研究能力を理由として否定的意見の割合が高くなっていった。研究については、計画的に進めることで十分な時間の保障は可能と考える。また、研究日を月に一回設定するなどの研究活動を保障する方策を考える必要がある。</p> <p>研修については、積極的に参加を促した。教</p>	<p>教員にとって、日常から絶えず研究と修養に努めることは、教育活動充実の観点からも欠かせない事項である。更なる教員の研究活動の保障、体制の整備、教員相互の支援しあう環境の充実を期待したい。</p> <p>研修の適切評価は増加しているものの、研究活動の保障や支援の評価が低下しており、働き方改革などの推進によるものと思いますが、教職員の資質向上に向けた時間や手当の確保をお願いします。</p> <p>研究活動の意義や目的は理解できるが、時間の確保、優先順位の低さ、自身の研究能力の低さが要因になっていると考える。これは、臨床における看護研究と同様であり必要性はわかっても負担感を生じている。時間の確保(勤務時間の一部)やラダー条件として位置づける等の体制整備が必要である。</p> <p>教員の働きやすい職場環境の整備を期待する。</p> <p>多忙な仕事環境でも研究や研修を継続するためには、「仕事」として実践できる環境支援が必要であると思います。</p>

<p>員研究は、全教員が発表するなど、積極的に教育能力開発に努めた。(詳細は、以下の通り)</p> <p>次年度も研修への積極的な参加を呼び掛けるとともに、引き続き、研究活動のための時間、財政、環境については保障していく必要がある。</p>	
--	--

### 【学校内】

#### <シンポジウム>

- ①12月22日 テーマ：シミュレーションを活用した臨床判断能力の基礎を培う教育方法の情報交換～現状報告と来年度の課題～看護学科7領域および助産学科が発表した。

#### <研修会>

- ①7月16日 「研究の基礎」京都府立医科大学 浅野弘明先生  
 ②8月25日 著作権研修会  
 ③9月21日 電子カルテ説明会  
 ④12月22日 Ipad 活用に関する研修 京都府立北嵯峨高等学校 岩木泰孝先生  
 ⑤12月23日 電子教科書説明会

#### <カムバックスクール>

8月5日(金) テーマ：「学校の中ではわからなかったこと」 助産学科1期生 YouTuber の SUNNY さん

#### <研究発表>

第31回 教職員研究発表会 3月24日(木)

- ①「本校助産学実習における継続事例実習の意義」～助産院における継続事例実習学びの実際～  
橋戸 好美他  
 ②「本校学生と教員の实習評価の差からみえるエゴグラム・パターンの現状と課題」  
石田 孝子他  
 ③「臨床判断能力を育成するパフォーマンス評価の一例」～老年看護学実習Iにおけるルーブリック評価表の作成報告～ 澤田 恵理・堀内 美希他  
 ④「本校の事前学習の認識に対する学生の実態調査」 北西 富江他  
 ⑤「本校看護学生の社会的スキルの実際」～Kiss-18尺度を用いて～ 中嶋 淳子他  
 ⑥「母性看護学実習における保健指導の学習効果」 松井 いづみ他

### 【学校外】

#### <研修>

- ①10月(オンデマンド)、安全な無痛分娩のための 助産師によるアセスメントとケア、メディカ出版、大原玲子先生他  
 ②2月京都府産婦人科医会 MCMC 母と子のメンタルヘルスケア研修会(入門編)、日本産婦人科医会 母子保健部会、桑田知之先生他" 3  
 ③2月 京都府産婦人科医会"テーマ：「看護が見える web セミナー：基礎看護学の授業設計：今どきの ICT・DX を活用した看護技術の授業展開」主催者：メディックメディア 講師：水戸優子先生(神奈川県立保健福祉大学大学院保健福祉学研究科長) "  
 ④11月 急性期における脳梗塞と脳出血の看護  
～注意すべき予測を立て、適切なケアに活かそう～ 主催：京都府看護協会(オンライン) 講師：中村祐司"  
 ⑤4月 周産期メンタルヘルスの必須知識と実践ポイント、日総研、宗田聡先生  
 ⑥令和4年4月15日～令和5年2月10日オンデマンド配信、臨床推論につなげるためのフィジカルアセスメント 脳神経編、日本看護協会、永松健先生、中根直子先生  
 ⑦令和4年4月15日～令和5年2月10日オンデマンド配信、臨床推論につなげるためのフィジ

カルアセスメント 呼吸・循環編、日本看護協会、吉松淳先生、池田千夏先生

⑧院内助産における産婦主体の助産ケア提供～フリースタイル分娩の介助、日本看護協会、青柳陽子先生、中根直子先生

⑨シミュレーション教育方法研究会 研究会代表 森本実希 随時参加

2023.2.25 テーマシミュレーション教育を活用した看護学生 OSCE のご紹介

京都橘大学看護学部/看護学研究科 准教授 野島 敬祐 先生 オンライン

⑩11月『看護がみえる WEB セミナー：看護過程指導戦略 永田流反転授業とその成果』メディアックメディア、永田明 オンライン"

⑪12月 地区別見取り研修 京都府看護協会 宇都宮宏子

⑫12月 一般病棟で出会う精神疾患をもつ患者と家族の支援と看護 京都府看護協会 須賀原教子

⑬9月 主任のための労務管理入門 日本看護協会 加藤明子氏、他

⑭12月 主任のための組織管理入門 日本看護協会 内川洋子氏

⑮7月 病院から地域へ～在宅療養を支えるケアを学ぼう 京都府看護協会 團野一美先生

⑯11月 急性期における「脳梗塞」と「脳出血」の看護～注意すべき予測を立てて適切なケアに活かそう～ 京都府看護協会 中村 祐司先生 "

⑰8月 日本看護協会 教育の質を担保する評価 池西静江先生

⑱"高齢者施設で生活する認知症の人への適切なケア 京都府看護協会 京都第一赤十字病院 老人看護学専門看護師 大畑茂子先生

⑲院内研修企画に役立てるシミュレーション研修(外科編) 京都橘大学 野島敬祐先生"

⑳7月 第44回 性教育指導セミナー全国大会「つながる力」を高める性教育～自立とは依存先を増やすこと～」、日本産婦人科医会、山形県 2

㉑ 12月 一般社団法人日本看護学校協議会 第3回教育研修会

㉒7月「在宅療養を支えるケアを学ぼう」 京都府看護協会 團野一美(訪問看護認定看護師)

㉓11月「学ぼう！家族看護のあり方」 京都府看護協会 河原宣子(京都橘大学看護学部) "

"テーマ：認知症看護研修「高齢者施設で生活する認知症の人への適切なケア」 京都府看護協会 講師名：大畑茂子(京都第一赤十字病院老人看護学専門看護師)) "

㉔7月 シミュレーション教育の基本を学ぼう 福岡女学院看護大学シミュレーション教育センター 講師藤野ユリ子・吉川由香里 2

㉕9月 院内の研修企画に役立てるシミュレーション研修 ～勉強会にシミュレーションを取り入れよう～ 京都橘大学 看護協会

㉖8月(オンデマンド) 認知症患者の意思決定支援 京都府看護協会 佛教大学保健医療技能学部看護学科 准教授 濱吉 美穂 2

㉗12月(オンライン) 「中堅専任教員の教育実践能力の強化～ICTを活用した授業設計～」 京都府看護協会 東京医療保健大学医療保健学部看護学科/大学院医療保健学研究科 准教授 西村礼子

㉘8月 教育の質を担保する評価～臨床判断能力を問う問題作成～主催者：日本看護学校協議会 講師：池西静江先生

㉙8月(オンデマンド) 慢性心不全の患者の看護 主催者：日本看護学校協議会 講師：横松孝史先生、藤原博美先生

<学会>

①2023.2.18 第4回 日本看護シミュレーションラーニング学会学術集会

兵庫県立大学看護学部 小西美和 兵庫県立大学地域ケア開発研究所 増野園恵

「未来を見据えて看護シミュレーションラーニングの本質を問う」 開催 兵庫県

②日本シミュレーションラーニング学会 イブニングセミナー 随時参加"

"研修会 『看護がみえる WEB セミナー：基礎看護学の授業設計：今どきの ICT・DX を活用した看護技術の授業展開』 11 月 27 日、メディックメディア、水戸優子

③学会：京都母性衛生学会総会・学術集会 安彦郁氏 講演テーマ『精神科医の立場から考える周産期メンタルヘルス』 京都開催(オンライン)" 4 名

**【短期研修】**

①9 月 24 日 (土)、10 月 14 日 (金)、12 月 17 日 (土)、1 月 16 日 (月)、2 月 22 日 (水)、3 月 14 日 (火) 看護教育継続研修 主催者：京都府看護協会 講師：池西静江先生、石束佳子先生、真砂由紀代先生" 3 名

②年 5 月 9 日 (月)～2022 年 11 月 30 日 大阪府専任教員養成講習会 大阪府看護協会 1 名